

「柏崎の橋」

63 ^{ふじづか} 藤塚橋（藤元町・北斗町）

藤塚橋は、柳田町地内を通る国道8号と、北斗町地内の柏崎市ガス水道局春日供給所付近を結ぶ市道柏崎11-150号線の一部であり、鯖石川の支流よしやぶ川に架かる。

「柏崎都市計画図」（昭和49年柏崎市発行）には、現在の柏崎11-150号線にあたる予定路線が記載されている。この道路は藤元町の団地、柳田町の商業施設といった土地利用を見越して、市街地の交通の利便性を高める目的で計画された。計画を受け、平成2年頃この道路の工事に着手、平成4年に完成すると同時に橋が竣工した。都市計画道路が整備されて以降、藤元町には次々と住宅が建てられ、団地が形成された。また、柳田町には商業施設が進出、建設されていった。

この橋は水田が一面に広がる何もないうちに新しく架けられた。このため、橋の名前について、市から春日町内会長へ相談があった。すると、地元の方から「藤塚橋」という提案があり、それが採用されることになった。古来、藤塚橋から東へ50～100mのところ「藤塚社（榎藤本神社）」という社やしろがあり、産土神社であったことや、「春日の藤塚」という伝説も残っていることがその命名の理由である。なお、現在藤塚社の場所は整地され、社はない。



現在の藤塚橋（藤元町から北斗町方面を望む）



国土地理院発行 2万5千分の1地形図『柏崎』（平成15年発行）を掲載

橋名の由来となった「春日の藤塚」の伝説は次のようなものである。

「昔、春日という地名もないころ、藤塚の森に怪光があった。これを恐れた村人は、加持祈祷をしたり、起誓を書して神社や寺に納めたが、怪しい光は鎮まらなかった。ある時、九兵衛という若者が怪光を見に行くことになった。九兵衛が怪光に近づくと、白衣の翁が現れ『われは春日の神なり。われ永らくこの地に垂れて汝らを守護せん。汝帰りてこれを村人に告げよ』と言い姿を消した。その夜、ひとしく霊夢を感じた村人たちは、産土の神としてこの神様を祀るようになった。これが現在の春日神社である。九兵衛の姓は杵淵と言って子孫は今に続いており、明治維新当時は春日の宮守であったという。」

伝説からは、先人たちが「藤塚」に祈りをささげ、地域を守ってきたことがうかがえる。「藤塚」は、橋名と伝説によって後世に伝えられる。これから風景が変わっても、藤塚橋は地域の発展、市民の生活を支える橋として広く利用されていくであろう。

- 参考にした本
『西中通のあゆみ 増補改訂版』（224 ニシ）
西中通のあゆみ編さん委員会 編
『春日村 あのことろ このころ』（224 トク）
徳間 友五郎 著
『柏崎文庫 17-1』（080 セキ） 関 甲子次郎 著
『柏崎市伝説集』（388 柏 キヨ） 柏崎市教育委員会 編